

# 大館市観光基本計画(2016－2023)



平成29年3月  
大館市

## はじめに



忠犬ハチ公のふるさと「大館というところ。」

住む人口は減っても、来る人口を増やし、持続可能なまちを形成するため、観光の産業化による交流人口の増加策並びに地域経済の振興策は本市にとって極めて重要な取り組みとして位置付けているところであります。

このため従来の計画を全面的に見直し、今後8年間を計画期間とする「大館市観光基本計画(2016-2023)」を新たに策定いたしました。

新たな観光基本計画は「歴史と匠の宝箱を発信 北東北の観光都市 大館へ」を基本理念とし、大館の「宝」である秋田犬、歴史や伝統文化、きりたんぼ・曲げわっぱなどの物産に光を当てるとともに、これらをさらに磨き上げ、新たな地域資源も加えながら、北東北観光の中心都市を目指すこととしております。

この計画により、ふるさと大館にある地域資源の価値向上を図るとともに、新たな価値を創造することによって皆さんの誇りを高め、住んで良し、訪れて良しのまちづくりの実現に向けて、市民の皆さんとともに取り組んでまいりたいと考えております。

最後に、本計画の策定に当たり、市議会をはじめとした関係各位並びに貴重なご意見をいただいた市民の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

平成29年3月

大館市長 福原淳嗣

# 目次

## 第1章 計画策定の趣旨

1 背景と目的 .....	1
2 計画の位置づけ .....	1
3 計画の期間 .....	1

## 第2章 観光の現状と課題

1 国の動向 .....	2
2 秋田県の動向 .....	3
◇ 秋田県の観光入込客数の推移 ...	3
◇ 秋田県における延べ宿泊者数並びに外国人宿泊者数の推移 ...	4
3 大館市の動向 .....	5
◇ 大館市の観光入込客数等の推移 ...	5
4 大館市の観光を取り巻く環境 .....	6
◇ 大館市の観光資源（宝） ...	6
《歴史・文化資源》7 / 《自然・伝統資源》8 / 《食・イベント資源》9 /	
《体験・スポーツレクリエーション》10	
5 大館市の観光振興に関する課題 .....	11

## 第3章 計画の基本的な考え方

1 観光の果たす役割 .....	12
2 将来像 .....	13
3 基本的な考え .....	14
I 基本理念 .....	14
II 基本方針 .....	15
III 施策目標 .....	16

## 第4章 計画目標

1 目標値の設定 .....	17
2 目標値 .....	18
3 目標達成のために .....	18

## 資料編

1 パブリックコメントの結果概要 .....	19
2 子どもサミットから .....	20

# 第1章 計画策定の趣旨

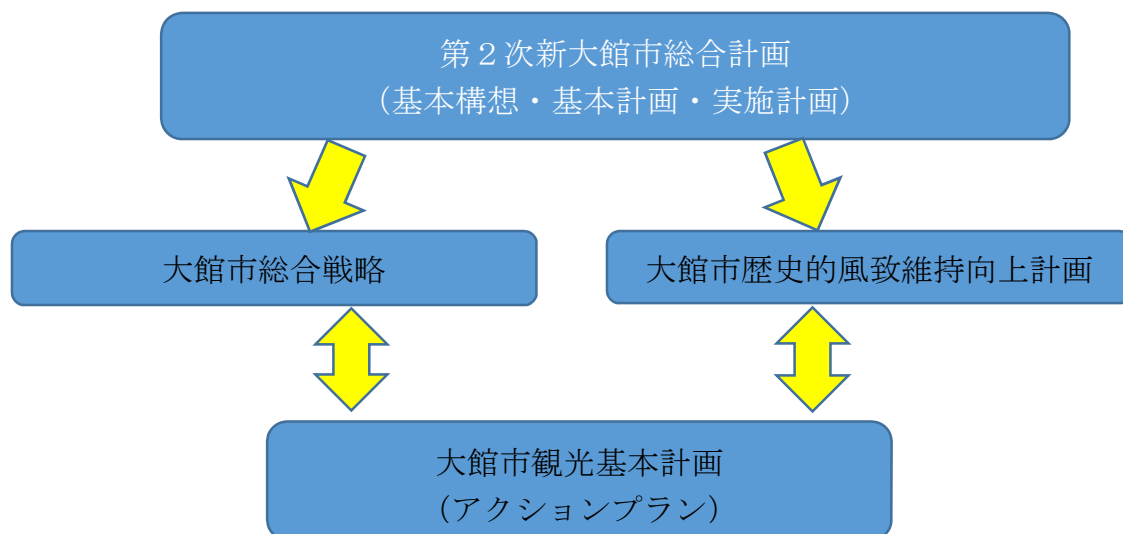
## 1 背景と目的

本市は、秋田犬など\*本州で最も多くの国の天然記念物や本場大館きりたんぼ、大館曲げわっぱなど、先人たちによって脈々と受け継がれてきた歴史文化、食、景観などの素晴らしい地域資源を有しています。

これらの貴重な地域資源を大切に守り、さらに磨き上げ、次の時代へと継承していくとともに、新たな地域資源を加えながら、北東北観光の中心都市を実現するため、大館市観光基本計画（2016－2023）を策定します。

\*秋田犬、比内鶏、声良鶏、芝谷地湿原植物群落、長走風穴高山植物群落、ザリガニ生息地

## 2 計画の位置づけ



## 3 計画の期間

本計画の期間は、平成28（2016）年度から平成35（2023）年度までの8年間とします。

計画策定後は、進捗状況の管理に努めるとともに、中間評価を行い、必要に応じて計画内容の見直しを行うこととします。

また、アクションプランについては、毎年度見直しを行います。

## 第2章 観光の現状と課題

### 1 国の動向

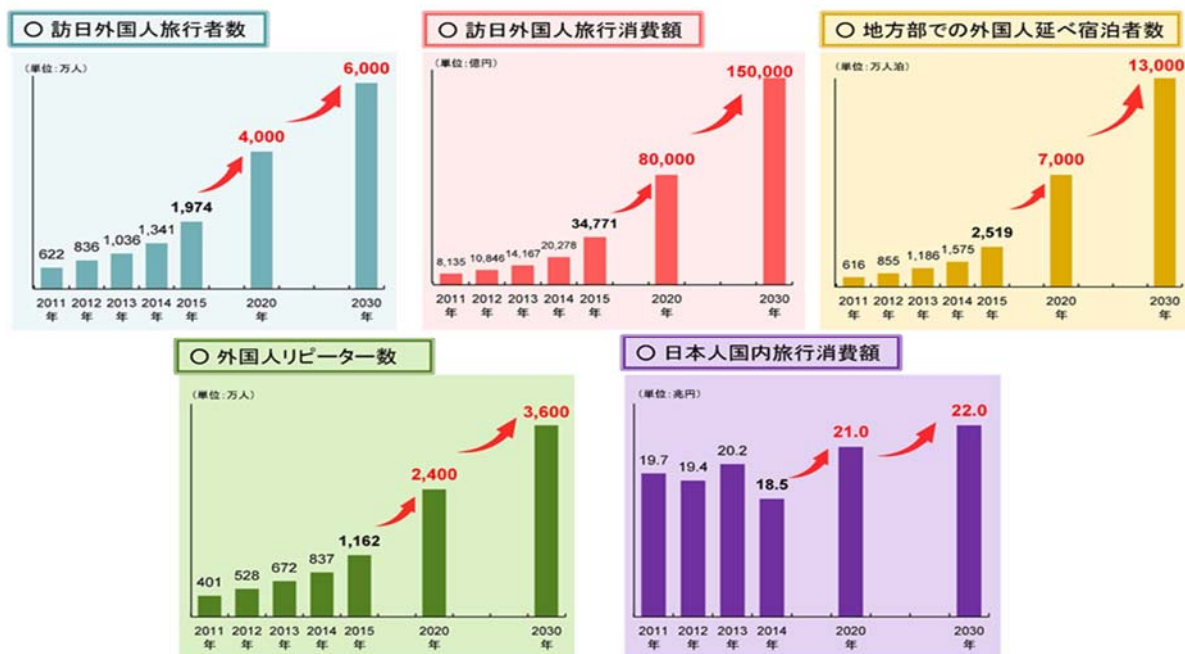
これまで国は、「観光立国」に向けて、戦略的なビザ緩和、免税制度の拡充、出入国管理体制の充実、航空ネットワークの拡大など、大胆な「改革」に取り組んできました。

その結果、対平成25年（2013）年比で訪日外国人旅行者数は2倍以上の約2000万人に達し、その消費額は3倍以上となり、自動車部品産業の輸出総額に匹敵する約3.5兆円に達しました。

日本は、自然・文化・気候・食という観光振興に必要な4つの条件を兼ね備えた、世界でも数少ない国の一つであり、これらの豊富な観光資源を真に開花させることにより、裾野の広い観光を一億総活躍の場とすることが可能です。

国は、さらに観光への取り組みを加速し日本の基幹産業へと成長させるため、「観光先進国」の実現を目標とした、「明日の日本を支える観光ビジョン」を平成28（2016）年3月に策定いたしました。

その中で、従来の目標値を大幅に前倒しさせ、次の5つの目標値を設定しました。

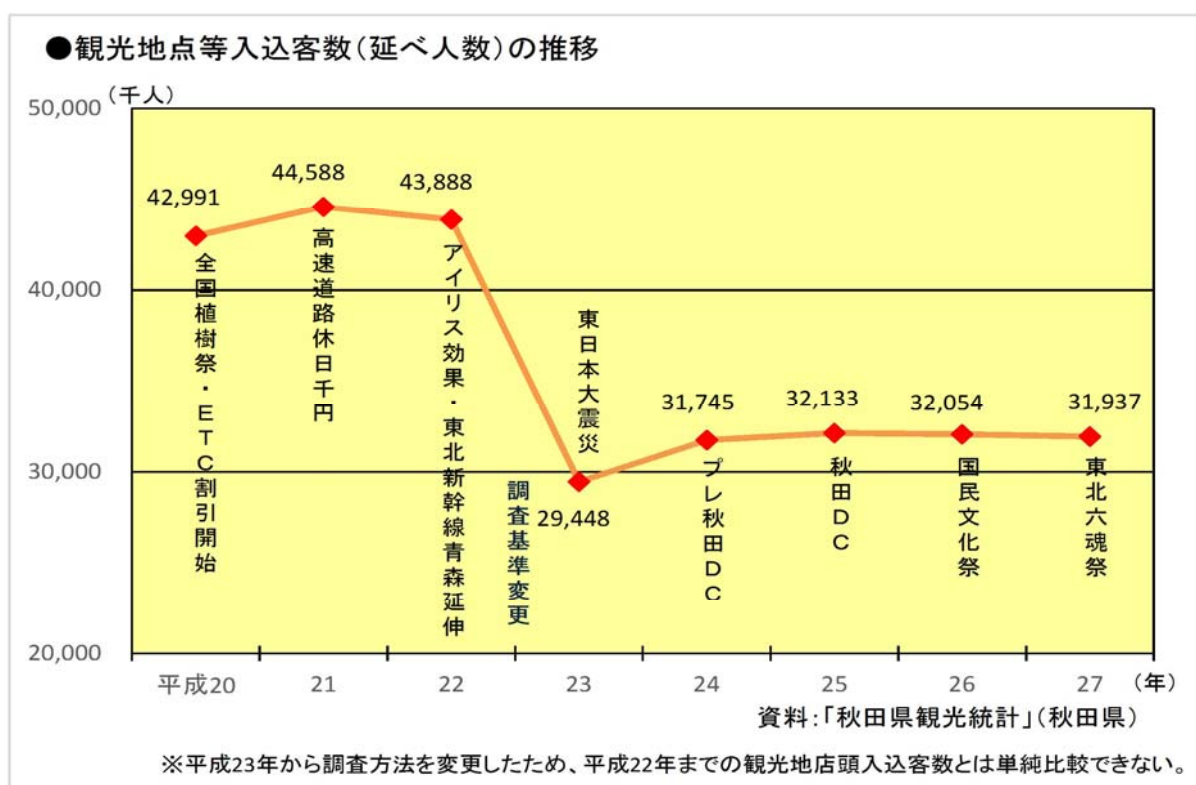


出展：「明日の日本を支える観光ビジョン」施策集（明日の日本を支える観光ビジョン構想会議）

## 2 秋田県の動向

### ◇ 秋田県の観光入込客数の推移

秋田県における観光地点等入込客数は、平成 23 (2011) 年の東日本大震災の影響や調査基準が変更されたことにより、同年は 29,448 千人と落ち込みましたが、翌年のプレ秋田DCにより 31,745 千人に増加し、秋田DC本番の 25 (2013) 年には 32,133 千人とさらに増加しています。26 (2014) 年には国民文化祭、27 (2015) 年には東北六魂祭の開催もあり、現状を維持している状況にあります。



### 統計数値について

・観光地点等入込客数調査については、調査対象地点を平成 23 (2011) 年から\*共通基準に基づく区分に変更したため、22 (2010) 年以前のデータとは単純に比較できません。[調査対象地点が約 1,300 地点から約 400 地点に変更されています。]

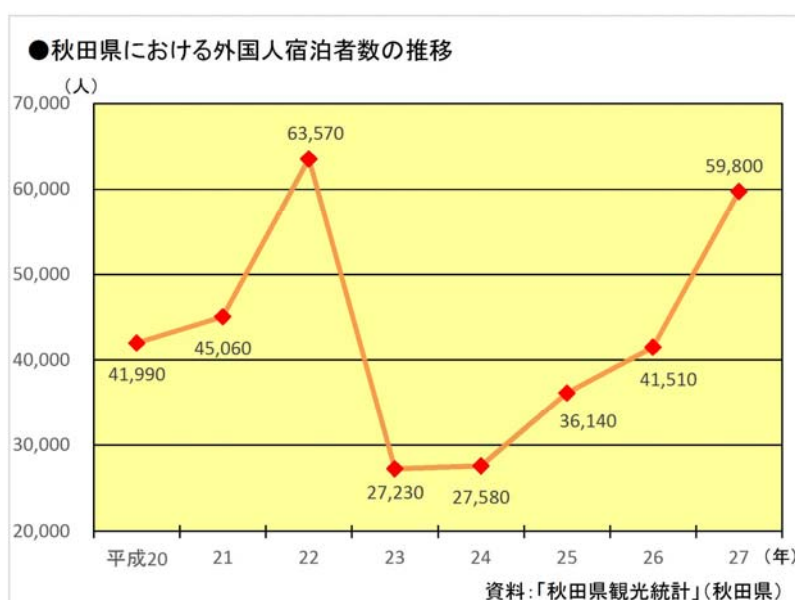
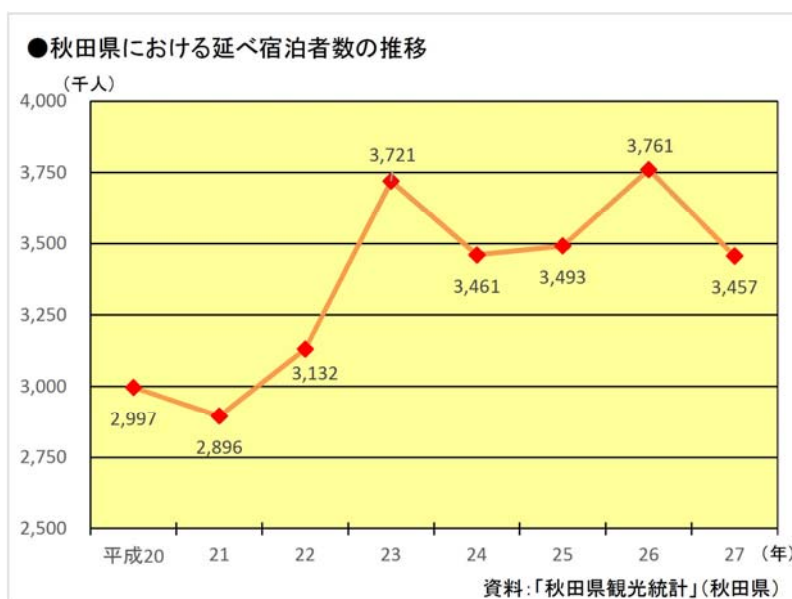
・宿泊者数は観光庁の「宿泊旅行統計調査」から引用しています(秋田県が独自に行っていた宿泊者統計は平成 22 (2010) 年で廃止されています)。

\*各都道府県が独自に集計していた方法を比較できるように、新たに観光庁が策定したもの

#### ◇ 秋田県における延べ宿泊者数並びに外国人宿泊者数の推移

秋田県における延べ宿泊者数は、平成 23（2011）年には 3,721 千人と前年比 19% 増となり、その後 2 年連続で減少しましたが、26（2014）年には 23 年とほぼ同数の 3,761 千人と回復傾向にありました。しかし、27（2015）年には 3,457 千人と再び減少しています。

また、外国人延べ宿泊者数は、平成 24（2012）年から増加に転じ、26 年 41,510 人、27 年 59,800 人と着実に増加しています。国籍別では韓国、台湾、中国などアジア圏からの宿泊者数が約 7 割を占めています。



・平成 22（2010）年 3 月までの調査対象は、従業員数 10 人以上の宿泊施設である。平成 22（2011）年 4 月調査より従業員数 9 人以下を含む全宿泊施設に調査対象を拡大した。

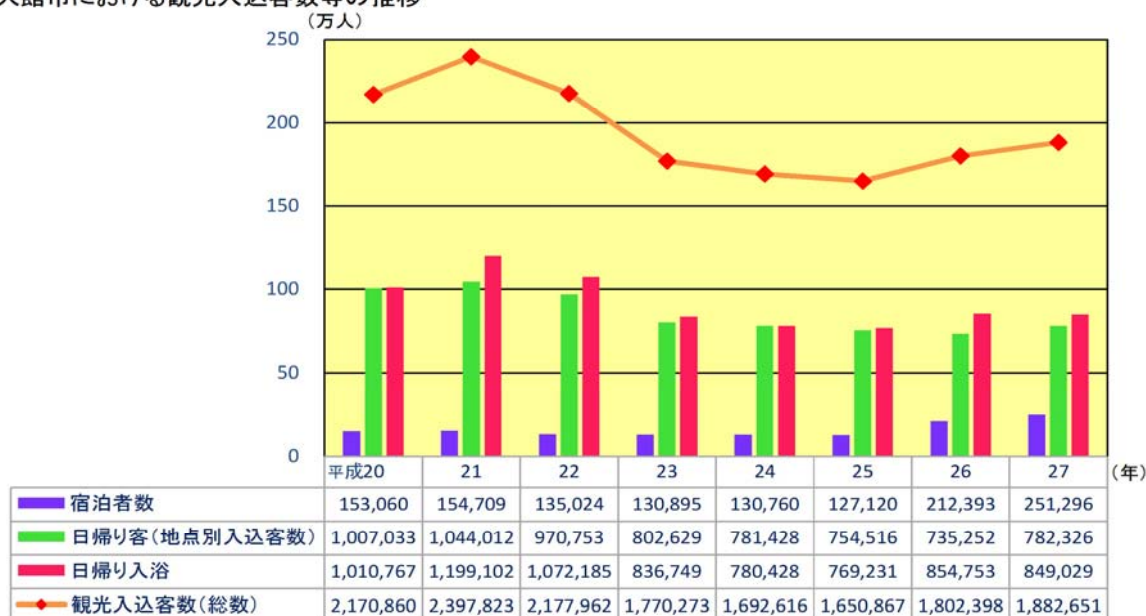


### 3 大館市の動向

#### ◇ 大館市の観光入込客数等の推移

本市の観光入込客数は、平成 21 (2009) 年の 2,397,823 人が最も多くなっていますが、23 (2011) 年には新基準での調査となったことから、大幅な減少となりました。新基準での調査となった 23 年からの推移をみると、毎年減少傾向にあったものが 26 (2014) 年からは増加に転じ、27 年 (2015) 年には 1,882,651 人となっています。増加の要因としては、宿泊者数の増加が挙げられ、主にイベント開催に伴い入込客数が多くなったことによるものと推定されます。

●大館市における観光入込客数等の推移



資料：観光入込客数調査（大館市）

（単位：人）

延べ宿泊者数については、26 年から増加に転じていて、27 年は 251,296 人となっています。また、外国人延べ宿泊者数は、23 年 294 人、24 (2012) 年 774 人、25 (2013) 年 432 人、26 年 671 人、27 年 586 人と 600 人前後で推移しており、国籍別では韓国、中国などのアジア圏からの宿泊者数が約 7 割を占めています。

イベント別では、24 年から大館樹海ドームを会場に開催されている「本場大館きりたんぽまつり」が 27 年には過去最高となる 132,000 人の来場者となり、秋田県を代表する大型イベントとして定着しているほか、27 年に初めて開催された「肉の博覧会 in おおだて」は 33,000 人の来場者でにぎわいました。このほかにも「大館アメッコ市」「大館バラまつり」「大館大文字まつり」など四季を通じて大きなイベントが開催され、多くの来場者でにぎわっています。



## 4 大館市の観光を取り巻く環境

### ◇ 大館市の観光資源（宝）

#### 《 歴史・文化 》

大館駅に着くと、忠犬ハチ公の銅像と秋田犬の群像が出迎えます。ハチ公は大館生まれの秋田犬で、本市は「忠犬ハチ公のふるさと」です。

また、大館城の跡地である桂城公園に加え、町割りにより配置された寺社が当時の位置に残り、城下町の面影をとどめている市街地や、400年以上続くと言われる大館神明社祭典や400年の歴史を持つ大館アメリッコ市などが歴史的風致を形成しています。



JR大館駅前

#### 《 自然・伝統 》

豊かな大地と豊富な森林資源に恵まれた本市は、その地勢からこの地方固有の伝統的な産物を創り出しました。津軽藩との境界論争で得た大館の森林は天然秋田杉の宝庫で、この森林資源から「大館曲げわっぱ」が生まれました。

#### 《 食・イベント 》

またミネラル分が多い土壌からは日本三大美味鶏として名高い「比内地鶏」が生まれました。加えて、「きりたんぼ鍋」は大館地方の伝統的な食文化として大館に古くから根付いています。

#### 《 体験・スポーツレクリエーション 》

近年は、これらを素材にした体験型ツーリズムや教育旅行の受け入れが盛んになるとともに大館のおいしい食材を内外に発信する取り組みが活発になっています。



本場大館きりたんぼ鍋

## 《 歴史・文化資源 》

本市は、忠犬ハチ公のふるさととして、天然記念物の「秋田犬」を配するとともに、慶長 15 (1610) 年に大館城代となった小場義成が形成した大館城下の町割りや地名が現在まで残っています。

市内には、国指定重要文化財大館八幡神社神殿、国登録有形文化財桜櫓館、県指定有形文化財の鳥潟会館や北鹿ハリストス正教会聖堂など、歴史的価値の高い資源が存在しているほか、400 年以上続く大館神明社祭典は、大館囃子の笛の音を奏でながら曳山車が市街地を練り歩く様が優雅で、多くの観光客が市内外から訪れます。

また、町割りで配置された寺社や旧羽州街道周辺では、大館が誇る冬の風物詩「大館アメッコ市」が受け継がれています。



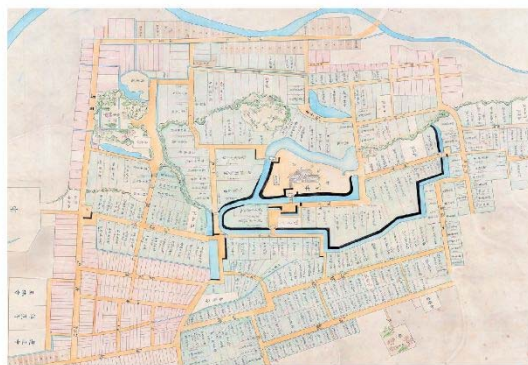
鳥潟会館



大館アメッコ市



大館神明社祭典



大館城下絵図：享保13 (1728) 年



## 《 自然・伝統資源 》

本市には、青森、秋田の県境近くに位置し白神山地に属する「田代岳」、市南部に位置する「竜ヶ森」などの山岳のほか、国指定天然記念物の「芝谷地湿原植物群落」、「長走風穴高山植物群落」、天然秋田杉美林が見学できる「矢立遊歩道」など、自然資源が多数存在しています。

また、市内には佐竹侯の湯治場として歴史ある大滝温泉をはじめ、秘湯や温泉銭湯などバラエティに富んだ温泉が数多く点在し、特に日帰り入浴が可能な温泉施設は市内全域に 27 カ所あります。さらに、秋田杉の宝庫である大館の森林からは、全国各地の曲げ物の中で唯一、通商産業大臣（現経済産業大臣）が伝統的工芸品に指定した「大館曲げわっぱ」が生まれ、市を代表する質の高い特産品として海外からも注目されています。



田代岳



竜ヶ森



矢立風景林



大館曲げわっぱ

## 《 食・イベント資源 》

豊かな大地と豊富な森林資源に恵まれた本市には、その地勢から豊かな食材が生まれています。日本三大美味鶏として名高い比内地鶏をはじめ、肥沃な大地から生産されるあきたこまちや枝豆、山の芋やとんぶりなどが大館の誇る代表的な食材です。また、季節を感じさせる山菜や伝統的な食文化である本場大館きりたんぽ、地酒の北鹿、廃校を利用して作られた白神生ハムなど、地域の特徴を活かした特産品もあります。

木造ドームでは世界最大級である「大館樹海ドーム」を活用したイベントも多く開催され、中でも「本場大館きりたんぽまつり」は開催期間に130,000人以上が来場する、本市を代表するイベントとなっているほか、四季を通じて開催されるイベントでも、500種類以上のバラが植栽されている石田ローズガーデンのバラまつりや「大館アメッコ市」「比内とりの市」「田代名産たけのこ祭り」は市内外から多くの来場者で賑わいます。



本場大館きりたんぽまつり



大館バラまつり



比内とりの市



田代名産たけのこ祭り



## 《 体験・スポーツレクリエーション 》

本市では「大館曲げわっぱ」や「本場大館きりたんぼ」など、この地域特有の文化に支えられた貴重な資源を活用した体験型旅行の受け入れを進めています。

曲げわっぱづくり体験では、本市が誇る伝統工芸品の高い技術力や秋田杉の特質に触れることができるほか、大館ふるさとキャリア教育では地域学習の一環として子どもたちの体験活動の場にもなっており、地域に根付いた体験メニューとして知られています。

郷土料理づくり体験としては、主にきりたんぼづくり体験が行われ、本市の特産品である比内地鶏などの食材や大館の食文化を紹介する恰好の機会となっています。

また、平成 21 (2009) 年に廃止された小坂鉄道の軌道敷を活用したレールバイク体験も行われていて、多くの愛好者でにぎわっているほか、世界最大級の木造ドームである大館樹海ドーム、16 面砂入り人工芝の高館テニスコート、樹海体育館などのスポーツコンベンション施設が整備されており、スポーツの全国大会も多く開催されています。



曲げわっぱづくり体験



きりたんぼづくり体験



大館・小坂鉄道レールバイク



高館テニスコート

## 5 大館市の観光振興に関する課題

本市の平成 27（2015）年の人口は 74,496 人となっておりますが、大館市人口ビジョンによる推計では平成 52（2040）年に 51,181 人、平成 72（2060）年には 35,237 人と減少し続けるものと予測されており、少子高齢化が最大の課題となっていることから、来たる人口減少に備え、第 2 次新大館市総合計画及び大館市総合戦略に基づく「ひとづくり」「暮らしづくり」「ものづくり」と「物語づくり」による「まちづくり」を着実に進め、未来の市民に受け継ぐ地域をつくっていく必要があります。

前項の「大館市の観光を取り巻く環境」で述べたとおり、本市には、秋田犬をはじめ、大館曲げわっぱ、本場大館きりたんぽなど、全国的な知名度を誇るコンテンツがある一方で、その他の観光資源については、市外の方のみならず、市民にも知られていない宝が多く存在し、地域の観光資源の認知度は高いとは言えない状況にあります。

これらを磨き上げ、ブランド力の向上、伝統的工芸品を生かした体験型観光や多彩な地域資源を活用した滞在型観光の促進、海外からの教育旅行の誘致など、観光による地域活性化へ向けた取り組みにより交流人口の拡大を図り、地域の活性化へつなげることが求められています。

また、近年の旅行者のニーズの多様化に応じて、大館のみならず、函館～大館～角館（～仙台）の南北軸、鹿角～大館～能代の東西軸を意識し、その中心に大館を置いた広域連携エリアによる観光地域づくりにも取り組むことも重要です。行政区域を越えての連携を進めるため、\*地域連携DMO（Destination Management/Marketing Organization）の形成により、的確な市場調査や観光客の受け入れ体制の整備など効果的な観光客誘致の実現に結びつくものと考えられます。



大館市観光キャラクター はちくん

\*地域連携DMO（Destination Management/Marketing Organization）

観光地（地域・観光資源）のマーケティングとプロモーション（ブランディング）を担い、観光集客をはじめ、資源管理やサービスの品質（安全）管理、観光戦略の立案や事業計画のマネジメント機能を有する自律的に運営する組織。



# 第3章 計画の基本的な考え方

## 1 観光の果たす役割

多くの観光客が本市を訪れることにより、市内の様々な分野に効果をもたらすことから、観光振興はこうした効果を本市の経済の活性化や地域振興のための重要な役割を担っています。

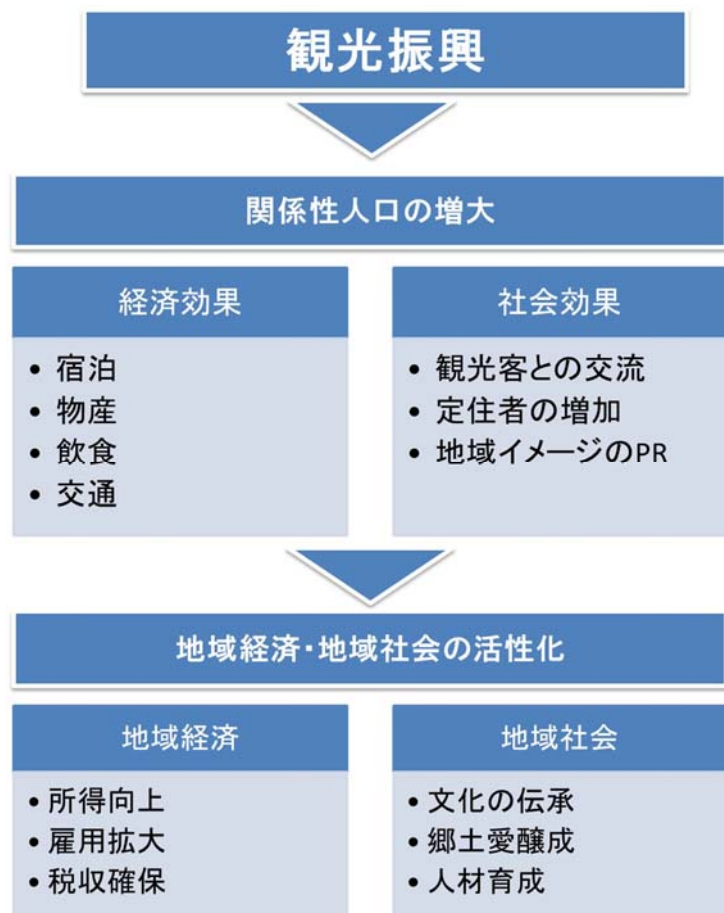
市内において観光客の行動によってもたらされる効果は、「経済効果」と「社会効果」に大きく分けられます。

「経済効果」とは、観光客の消費支出の増大により既存産業の活力が拡充し、新規産業の立地が展開されることであり、これに伴い市内における雇用の拡大が図られ、市民所得が向上することが予想されます。

本市の観光が基幹的産業にまで成長を遂げた場合、このような経済面での波及効果が全市にわたり、かつ、幅広い産業分野にわたって拡大することが期待されます。

「社会効果」とは、観光客と市民との交流の活発化をはじめ、市民及び観光客による大館の魅力の発見がもたらす誇りや郷土愛の醸成、観光客の定住促進などを経て、生活文化の向上が図られることであり、ひいては観光を通じて全国的・世界的に知名度が高まり、地域イメージの向上につながることもなります。

これらが相乗的な効果を生みだし、活力ある地域社会の実現に結びつくことが観光振興の果たす役割として期待されます。



## 2 将来像

国では、「観光先進国」への「3つの視点」と「10の改革」を掲げ、その中において、「地方創生回廊」を完備し、全国どこへでも快適な旅行を実現することを、改革の一つとしています。

その中において、東北の観光振興に向け、東北6県の外国人宿泊者数を平成32(2020)年に150万人泊(2015年の3倍)とするため、目指すべき将来像として、北海道新幹線開業を契機として南北海道・東北エリアの一体化を掲げ、外国人観光客の東北への誘導を創出するとしています。

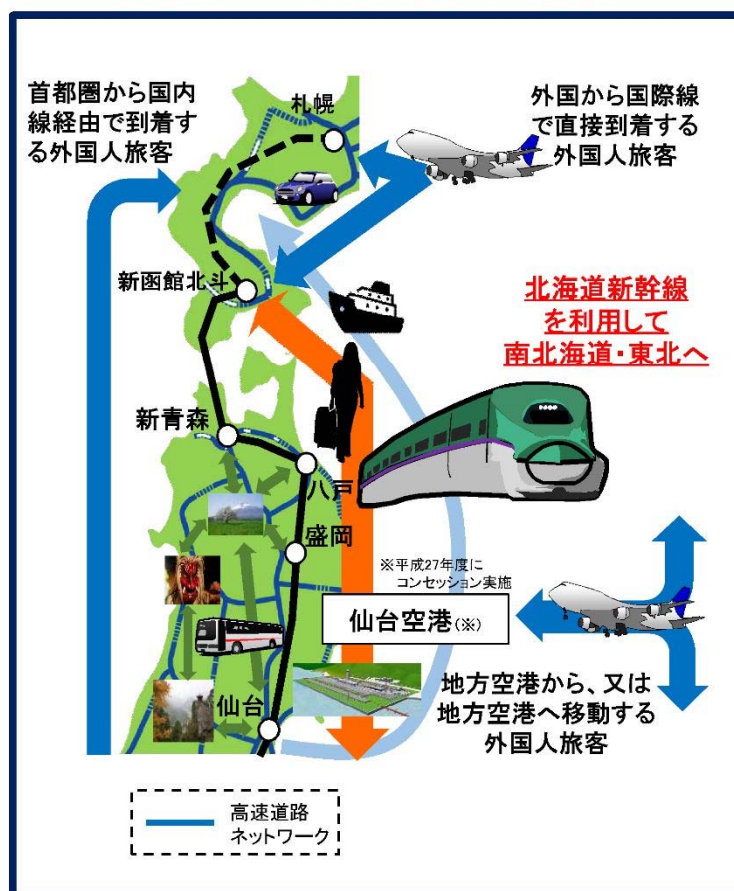
本市では、観光振興に対する各種取り組みを推進し、交流人口の増加を図ることは、地域経済の活性化に非常に有効な戦略であります。

少子高齢化による人口減少がますます加速していく中で、地域への経済波及効果を高めて、観光入込客数を増加させるため、海外からの誘客増加を図ることが重要なポイントとなります。

これからは、観光による経済波及効果を最大限に享受するためには、観光事業者や行政だけではなく、市民をはじめさまざまな業種との連携・協力のもと、地域一丸となって観光振興に対する取り組みを進めます。

### 目指すべき将来像

#### (例) 北海道新幹線開業を契機とした 南北海道・東北エリアの一体化



出展：「明日の日本を支える観光ビジョン」施策集（明日の日本を支える観光ビジョン構想会議）

### 3 基本的な考え

基本理念に基づく観光都市を実現するために、3つの基本方針を柱とし、前章で明らかにした課題を踏まえ、本市が有する地域資源の活用や将来動向を勘案しながら、基本方針を基に5つの目標を掲げ、大館市が目指す8年後の姿を設定します。

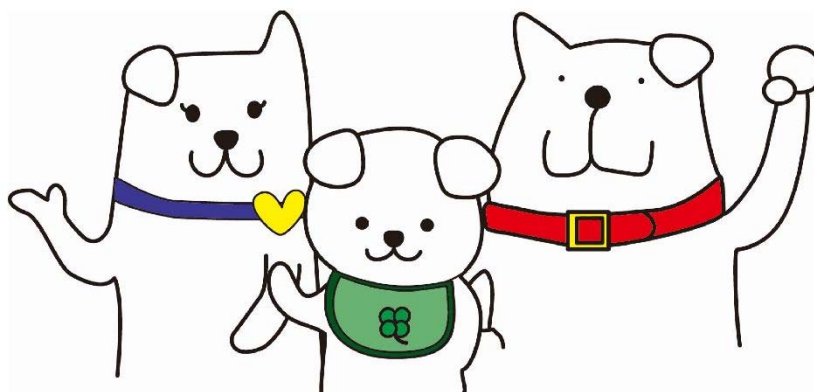
#### I 基本理念

大館の「宝」である秋田犬、歴史や伝統文化、きりたんぽ・曲げわっぱなどの物産に光を当てるとともに、これらをさらに磨き上げ、新たな地域資源も加えながら、北東北の拠点に位置する観光都市を目指すことを基本的な考え方（基本理念）として掲げ、「匠と歴史の宝箱」を発信します。

## 基本理念

「匠と歴史の宝箱を発信」

北東北の観光都市 大館へ



## Ⅱ 基本方針

基本理念を実現させるため、次の3つの方針を設定し、施策を展開します。これら3つの基本方針は、どれも欠くことのできない重要な要素であり、ここでは未来を照らす道しるべとして設定します。

### 基本方針

#### 交流人口の拡大

おもてなしの気持ちを持った市民が観光客を受け入れ、さまざまな交流が生まれる、活力あるまち「おおだて」

#### 観光の産業化

官民一体となった観光振興と地域産業との連携による、市民一人ひとりが輝く、元気なまち「おおだて」

#### 広域連携の促進

北東北の拠点都市として、国内外から観光客を積極的に受け入れる、連携のまち「おおだて」





### Ⅲ 施策目標

3つの基本方針の視点に沿って、具体的施策へと結びつけるための施策目標として、次の5項目を設定します。それぞれの施策目標から、具体的な施策展開の推進が図られ、計画目標への道筋がはっきりと見えてきます。

## 施策目標

### ①大館ブランドの向上

秋田犬、大館曲げわっぱ、きりたんぽ、比内地鶏など、全国に名だたるブランドを持つ大館の強みを生かすとともに、伝統文化や歴史などをはじめとした大館の地域資源を活用して、交流人口の増加、地域産業の振興を図ります。

### ②プロモーション力の強化

首都圏・北関東・東北、またアジア圏など海外への誘致宣伝活動をはじめ、修学旅行、スポーツ・文化イベントなどの誘致に積極的に取り組みます。

### ③おもてなし体制の充実

観光客を迎えるためのおもてなし意識の醸成、人材の育成などを図り、国内外からの観光客を受け入れる体制づくりを進めます。

### ④広域観光地域づくりの機能追加

観光協会をはじめとした既存の各種団体等を包含し、行政を連携しつつ地域を総合的に取りまとめ、新たな観光市場を創造することができる地域マネジメント組織を形成し、広域的な観光地域づくりを目指します。

### ⑤海外からの誘客拡大

日本を訪れる海外旅行客が飛躍的に増えていることから、海外からの誘客のための組織体制、社会基盤の整備を進めます。

## 第4章 計画目標

### 1 目標値の設定

少子高齢社会の中で、交流人口増加による外貨獲得、消費拡大を図ることは、地域経済活性化のために大変重要なことです。

このため、本計画では、観光入込客数の目標を設定し、地域経済に効果の大きい交流人口増加の実現に向けた取り組みを積極的に推進します。大館には「食」「温泉」「体験」といった近年の観光需要に十分対応できる観光素材が整っています。この強みを生かして、観光入込客数の底上げを図るべく、各種施策の実施により、次の通り観光入込客数の拡大を目指すとします。

全体的な目標数値は平成27(2015)年の観光入込客数に対し、平成35(2024)年は約1.32倍の250万人としますが、特に、外国人観光客については、国内観光市場とは異なり、東南アジアを中心に拡大していく余地が十分にあることから、訪日外国人の受け入れ目標値を平成27年に対し、約17倍の10,000人と設定し、そのための施策を重点的に進めることとします。多くの観光客が本市を訪れることにより、市内においては様々な効果をもたらします。

観光地域づくりによる観光入込客数の底上げ



入込客数 250 万人の達成により、観光の経済波及効果 278 億円を目指す



## 2 目標値

### 観光入込客数

区 分	平成27年推計	平成31年目標	平成35年目標
観光入込客数	188万人	220万人	250万人
（うち訪日外国人）	586人	8,000人	10,000人

### 経済波及効果

区 分	平成27年推計	平成31年目標	平成35年目標
経済波及効果合計	206億5,700万円	247億2,500万円	278億2,600万円
生産波及効果	176億8,900万円	212億4,000万円	239億300万円
観光消費額	125億9,400万円	152億5,800万円	171億6,900万円
一次波及効果	32億4,500万円	38億1,700万円	42億9,900万円
二次波及効果	18億5,000万円	21億6,500万円	24億3,500万円
付加価値波及効果（GDP）	29億6,800万円	34億8,500万円	39億2,300万円
一次波及効果	17億8,900万円	21億500万円	23億7,000万円
二次波及効果	11億7,900万円	13億8,000万円	15億5,300万円

### 雇用誘発効果

区 分	平成27年推計	平成31年目標	平成35年目標
雇用者誘発数	480人	576人	649人
一次波及効果	318人	386人	437人
二次波及効果	162人	190人	212人

## 3 目標達成のために

各施策を構成する具体的取り組みは、今後の観光を取り巻く社会情勢の変化を見ながら、本市ならびに連携自治体を中心に、関係団体・関係機関と調整しつつ、柔軟かつ効果的に実施します。特に、市民参画が可能なものについては、積極的に官民連携を図ります。

第2次新大館市総合計画と大館市総合戦略では、大館市の将来像『匠と歴史を伝承し、誇りと宝を力に変えていく「未来創造都市」』の実現を掲げており、観光面においては「交流人口の拡大」を最大の課題と捉え、具体的な施策については「アクションプラン」で示しながら、毎年度見直しを行うこととします。

# 資料編

## 1 パブリックコメントの結果概要

### 1 意見募集の対象

- ・「大館市観光基本計画（2016－2023）（案）」

### 2 公開の方法

- ・ 閲覧  
大館市役所本庁市民ホール、産業部観光課、比内総合支所地域振興係、  
田代総合支所地域振興係、秋田看護福祉大学、秋田職業能力開発短期大学校
- ・ 説明会  
大館商工会議所、大館地域観光振興協議会幹事会
- ・ 子どもサミット代表者会議における概要説明

### 3 意見の提出方法

- ・ 直接提出
- ・ 郵送
- ・ ファクシミリ
- ・ 電子メール

### 4 意見書の受理状況

- ・ 意見書数 31通
- ・ 意見数 62件  
※意見の要旨と意見に対する市の考え方をホームページで公表
- ・ 子どもサミット 25通  
※次項で内容を紹介

## 2 子どもサミットから

子どもサミット代表会議の中学生メンバーを対象に計画の概要を説明し、感想をいただきましたので、明日の大館を担う子どもたちの声を紹介します。

○観光を基幹的産業として成長させていくなれば、大館の大きな魅力である「きりたんぼ」「大館曲げわっぱ」などの伝統産業における後継者育成に力を入れていくことが大切であり、定住者の増加にもつながると思う。具体策としては、大学における伝統産業科の設置、職人による高校訪問など。観光を発展させていくには、集客よりも若い人に大館の伝統産業の良さを知ってもらうことで、伝統産業の魅力の向上と大館市のイメージアップにもなる。観光都市の実現は簡単なことではないと思うが、がんばってほしい。

○イベントは多彩だが、観光客を呼びたいのか、市民で盛り上がりたいのか、中途半端なものがほとんどなので、2つくらいの魅力あるイベントにし、また来たいと思わせることで継続した集客力、観光客増加につながる。参加（体験）型の活動を増やし、大館の伝統や文化を地元の人と交流を深めながら感じてもらい、さらにSNS等で発信してもらうことでプロモーション力の強化につながると思う。

○大館市が誇る伝統工芸士の技術や工芸品、伝統あるお祭りなどを広くPRすることに加え、大館曲げわっぱや比内地鶏などを積極的に観光客に売り込み、大館ブランドとして根強い人気を獲得することが大事。また、観光地の商店街としての活性化や市道などの整備、インバウンド対応の強化など、おもてなし力の向上が、より多くの観光客を見込めるポイントになる。

○観光基本計画における大館ブランドと海外の観光客をターゲットにする方針に大変興味を持った。市内の有名品同士をコラボすることで、大館ブランドをより独特で良いものになると思った。（例：鶏めし×大館曲げわっぱ弁当）また、シャッター街の商店街や点在する空き家を宿泊施設などに改装して、表記の多言語化をはかることにより外国人向けの宿泊施設を作ることが大切。「匠と歴史の宝箱」の取り組みは、大館市の観光が明るくなるいい案でとても楽しみです。

○海外の人々を増やすためには外国人が知っているもので、大館ならではのものをPRすべき。木造の樹海ドーム秋田ならではのものや大館駅前の忠犬ハチ公像などの昔から知られているものが良い素材。また、大館ブランドとして、曲げわっぱをもっと活用すべき。普段の生活でもっと活躍出来るようなものを作れば、使用者が増えると思う。大館市の発展のためにも頑張ってもらいたい。

○子供が遊べる場所が増えたらいいと考えた。レールバイクがあるが、小さい子供や身体が不自由な人も楽しめる、ミニトレインという乗車するだけの乗り物もあればいい。また、外国人には温泉好きも多いので温泉は観光資源になると思う。個別風呂などのプライバシーに配慮がある温泉を増やすことや秋田杉を利用した日本らしい部屋を作って外国人に楽しんでほしい。



○秋田犬、大館曲げわっぱ、きりたんぼ、比内地鶏など大館ブランドを国内外に広く発信する必要がある。例えばCMを作り全国レベルで放送したり、インターネットを活用して海外にも発信するなどの取り組みを行うべき。おもてなし体制の充実には、市外から来る人々にも分かりやすいように、観光案内看板を目立つところに設置、観光地や名所を紹介した案内地図の作成及び設置をするべき。また、それらを外国人向けに多言語化の整備をしてほしい。

○大館にあるたんぼを活用した農業体験、曲げわっぱづくり体験、秋田犬ふれあい体験など大館の魅力を存分に楽しめるツアー形式のPRをするのが良いと思う。また、大館の観光を活性化させるためには、大館に住んでいる人に、大館の魅力を再発見してもらおうことが重要である。

○豊富な観光資源を有しながら、大館に観光客が増えない理由は、観光資源になり得るものがいつでも体験出来るものではないからである。自分が観光客であれば、「おすすめの旅路」のようなマップを見ながら、きりたんぼ巡り、秋田犬ふれあい巡り、地元の話の人との出会いなどを楽しみたい。大館の良さにいつでも体験できるようなまちづくりはもちろんのこと、それをどんどん発信することも重要。

○大館に観光客を増やすために、バスツアーを行ってみれば良いと思う。秋田犬にかかわりがある施設や名所を巡る秋田犬コースは、県外や外国人に人気になると思う。曲げわっぱ体験や樹海ドームでの運動、鶏めしを食べるなどの大館の魅力が詰まったプランも取り入れてみれば良いと思う。大館産のコメを使った米菓子やきりたんぼ鍋のアレンジなど、観光客の興味をひくものが肝心。市HPなどでどんどん発信して欲しい。

○きりたんぼに特に焦点を当ててアピールをしていくべきではないか。きりたんぼにチョコやお菓子などを組み合わせた若者向けなアレンジも開発していくとおもしろい。他にもいろいろ美味しい食べ物は豊富にあるので、知ってもらえるかにかかっている。また、東京にきりたんぼや大館特産に特化したお店をつくることで、首都圏でのPRが図れると思う。

○大館という自然豊かで特産品も多い地域に生まれ、とても嬉しく思う反面、観光客が少ない現状は残念に思っている。大館のPRには、おもてなし面の強化が重要であり、とりわけ外国人は「和」を求めている傾向にあり、大館の特産と和を提供することによって観光客増加に期待できる。また、シャイニングストリートはとても良い取り組みで、もっと積極的に行うべき。テーマパークを作るという計画は、土地や中身などに留意しなければ難しいと思う。

○大館のPR案を2つ考えた。1つは伝統的なものを親しみやすい形に変えることだ。きりたんぼや曲げわっぱは素晴らしいものだが、中学生からすると少し親しみづらい印象を受ける。現代人向けにコーヒーカップ、フォーク、スプーンなどはどうだろうか。2つ目はSNSを活用し、イベントや商品の動画を発信することで大館のPRができる。

○消滅可能性都市の大館市には、観光を利用し大館の良さを知ってもらうことが必要である。さらに私たち中学生が大人になっても大館を守りたいという強い意志も必要だと分かった。また、受け継がれてきた伝統を市内外の人々に触れてもらうのは大館の良さを知るいいきっかけになる。体験教室等は是非やってほしい。

○大館で最近発見されてきている遺跡を観光場所の一つとして取り入れるといいと思う。また、出土した土器などを展示する大館郷土博物館も観光場所として取り入れるといいと思う。観光客だけでなく、大館市民も訪れる機会が増すと思うので、ぜひ取り入れて欲しい。

○大館市には韓国、台湾、中国などアジア圏からの観光客が多いが、大館駅には外国語の表記がない。観光客が過ごしやすい環境を整備することで、より多くの外国人を呼び込むことができると思う。また、大館市はアスレチックやキャンプ場などが少ない。きりたんぽまつりなど市民が楽しみにしているイベントに外部の人がもっと来てほしいと思う。これからの大館のまちづくりに目を向けていきたいと思った。

○「交流人口の拡大」では口コミでお客様の増加する可能性、市民との交流で大館への関心が向上する。「観光の産業化」ではきりたんぽ、曲げわっぱ、秋田犬を核とすることでブランドの向上が現実的になる。「広域連携の促進」での観光資源情報の発信は良いが交通アクセスが万全ではない。外国人に対して、バス賃無料などをすれば良いと思った。

○交流人口の拡大により宿泊客数、リピーターの増加で大館市民の温かさが伝わり印象の向上になる。観光客の口コミで大館を発信しさらなる観光客の増加が期待できる。また、交通アクセスが良くない大館市にも「行きたい」と思わせる大型イベントが必要だと思う。秋田犬などの観光資源を利用し国内外の人が興味を持てるイベント開催で、観光客が増えると思う。

○大館を知らない人に大館の良さが伝わるように書いていて良いと思った。中学生として何ができるか考えた。中学校の修学旅行では渋谷駅周辺で大館のPR活動やアンケートの実施をしている。県外でもPRすることが大事である。また、英語を授業で勉強しており、外国人観光客をガイドすることができると思う。中学生が出来る事を頑張っていきたいと思う。

○この計画はとてもすばらしい考えだと思った。大震災により観光客数がかなり減り、現在は現状維持というのがわかった。大館の宝である秋田犬や歴史、文化、食文化を発信するとともに向上させること、経済波及効果を高め地域活性化し少子高齢化に歯止めをかけることなどの考えがすばらしいと思った。



○学校内、クラス内で「ふるさと」についての話し合いをしている。その中の意見で行ってほしいものを提案します（抜粋）。

- ・大館の名物、名所などの写真が載っているカレンダー
- ・ふるさと納税の活性化（学生たちにふるさと納税の存在を伝える）  
→たけのこを使った名物、プリンポッシュ、米や枝豆で…
- ・〇〇体験をいろんな会社に協力してもらい行う（格安で）  
例：曲げわっぱ作り、田植え、きりたんぼ作り、自然
- ・自然アートを大規模にたくさん行う。
- ・子供ハローワークの活性化（子供が大館を知ることができる）

私たち学生は出来る事は限られているが、少しでも地域に貢献できるように学校の中でも取組をしていきたい。

○今後、取組案を話し合う場を小中学校に設けてもらえばよいのではないかと。また、中学校の修学旅行では大館へ興味を持ってもらうために渋谷駅周辺で大館のPRをしている。県外でPRすることにより観光客増加が期待できる。私たちは英語を勉強しているので外国人のガイドができる。中学生ができることの中で大館市に貢献していきたい。

○観光入込客数、訪日外国人を増やすためには大館ブランドをもっとアピールしたらいいと思う。しかし、大館にはアピールする環境が整っていない上に、悪いイメージを与えるシャッター街などの負の遺産がある。現在使用していない空き物件を整備すれば大館が明るくなる。よって大館のPRとともに観光客がもっと増えると思う。

○大館市には県内外、世界へ誇れる良さがあるがそれを伝えられていない。計画の中に大館ブランドの向上、大館の強みを生かすとあるが具体的に何をやるのかがわからない。印象的な動画を作成し世界に発信するなどのような取組をするかによって、観光客数は大きく変化すると思う。私が積極的に参加できるような大館のPR活動を増やしてほしい。

○基本理念が今の大館にぴったりだと思った。少子高齢化の中で新しいものを作らず、今ある歴史、伝統を観光へ活かす方向性がいいと思った。観光発展の上でおもてなし体制の充実は大きな土台となり、市民全体の協力を得られれば大きく変わると思う。また、県内外との連携、ネットワークでの宣伝が大事だと思う。